

ラフマニノフ ピアノ3連投!!

松田華音

上原彩子

熱狂 コンチェルト 2026

福岡 洸太郎

[指揮] 飯森範親

[管弦楽] 日本センチュリー交響楽団

オール・ラフマニノフ・プログラム

ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 op.30 松田華音

ピアノ協奏曲 第4番 ト短調 op.40 福岡 洸太郎

パガニーニの主題による狂詩曲 op.43 上原彩子

2026 2.7 (土) 14:00開演 (13:00開場)
S 8,800円 A 7,700円 B 6,600円 (全席指定/税込)

ザ・シンフォニーホール

主催：ザ・シンフォニーホール

プレイガイド

■e+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonyhall> (パソコン・携帯)
■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall> [Lコード: 53985]
■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード: 301-926]

ご予約・お問合せ

ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333 (火曜定休)
<https://www.symphonyhall.jp>

詳細はこちら



※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

熱狂コンチェルト 2026 ラフマニノフ ピアノ3連投!!

3人のソリストが競演する「熱狂コンチェルト」。2026年は、まさに旬というべき、松田華音、福岡洸太郎、上原彩子が登場し、2023年に続いてオール・ラフマニノフ・プログラムを披露する。まずは、ロシアで学び、ロシア音楽を得意とする松田華音が、ラフマニノフのピアノ協奏曲の中で最も規模の大きい第3番を弾く。松田の華麗な演奏が楽しみ。続いて、2024年にデビュー20周年を迎え、あまり取り上げられない作品の演奏にも積極的に取り組む福岡洸太郎がピアノ協奏曲第4番を演奏する。ラフマニノフのピアノ協奏曲では第2番と第3番が突出して人気が高いが、第4番も非常に魅力的であることが実感できるであろう。そして、チャイコフスキー・コンクール優勝から20年以上が経ち、ますます充実した演奏活動を行う上原が「パガニーニの主題による狂詩曲」を弾く。第18変奏の美しいメロディが特に有名なこの作品での上原の名演が期待される。飯森範親&日本センチュリー交響楽団のサポートも盤石。

山田治生

【指揮】飯森 範親 *Norichika Iimori, Conductor*

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任、日本ツアーも成功に導いた。国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係を持ち、正指揮者、特別客演指揮者を歴任。2014年、日本センチュリー交響楽団の首席指揮者に就任。2015年より世界的にも例の少ないハイドンの交響曲全曲演奏&録音という大プロジェクトを手掛け、2025年3月に完結させた。パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、群馬交響楽団常任指揮者、いづみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者、武蔵野音楽大学客員教授。

オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>



【ピアノ】松田 華音

Kanon Matsuda, Piano

6歳よりモスクワで学ぶ。ロシア最高峰の名門、グネーシン記念中等(高等)学校で学び、スクリャービン記念博物館より2011年度「スクリャービン奨学生」に選ばれ、外国人初の実優秀生徒賞を受賞し首席で卒業。モスクワ音楽院に日本人初となるロシア政府特別奨学生として入学、2019年6月首席で卒業。2021年モスクワ音楽院大学院修了。これまでにプレトニョフ、ゲルギエフ、パティストーニ、インキネン、秋山和慶、円光寺雅彦、尾高忠明、小林研一郎、高関健、飯森範親各氏の指揮の下、ロシア・ナショナル管弦楽団、マリインスキー劇場管弦楽団、ブラハ交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団等と共演。ドイツ・グラモフォンより2枚のアルバムをリリース。2018年かがわ21世紀大賞受賞。

公式HP <https://www.japanarts.co.jp/artist/kanonmatsuda/>



【ピアノ】福岡 洸太郎

Kotaro Fukuma, Piano

20歳でクリーヴランド国際コンクール日本人初の優勝およびショパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンター、サントリーホールなどでのリサイタルの他、クリーヴランド管、イスラエル・フィル、NHK交響楽団など著名オーケストラと多数共演。CDは多数録音しており、2023年にリリースの「幻想を求めて〜スクリャービン&ラフマニノフ」(ナクソス)は欧州のInternational Classical Music Awardsにノミネートされた。2024年通算20作目のCD「ショパンの想い出」を日欧同時発売。多彩なレパートリーと表現力、コンセプチュアルなプログラム、また5か国語を操り国内外で活躍中。2024年スペインのアルベニス・メダルを受賞。2024年日本デビュー20周年を迎え、全国で記念リサイタルツアーを行い、各地で高い評価を得た。

公式HP <https://kotarofukuma.com/>



【ピアノ】上原 彩子

Ayako Uehara, Piano

第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。これまでに、ヤノフスキ、ノセダ、ルイージ、ラザレフ、ベレンコ、小澤征爾、小林研一郎、尾高忠明、飯森範親、各氏等の指揮のもと、国内外のオーケストラのソリストとしての共演も多い。2004年12月にはデュワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDはEMIクラシックスから3枚がワールドワイドで発売された他、キングレコードより「ラフマニノフ 13の前奏曲」「上原彩子のモーツァルト&チャイコフスキー」「デビュー20周年記念コンサート・ライヴ盤」等4枚がリリースされている。東京藝術大学音楽学部 早期教育リサーチセンター准教授。

公式HP <https://www.japanarts.co.jp/artist/ayakoUEHARA>



【管弦楽】日本センチュリー交響楽団 街に響く。心に届く。 *Japan Century Symphony Orchestra*

1989年に発足、大阪府豊中市を拠点に活動するオーケストラ。2025年4月より久石譲が音楽監督に就任、名誉ミュージックアドバイザーに秋山和慶を擁す。ザ・シンフォニーホールでのシンフォニー定期演奏会、豊中市立文化芸術センターでの「豊中名曲シリーズ」を開催している。教育プログラムや地域連携事業にも力を入れ、依頼公演、室内楽コンサート、学校公演、アンサンブル等を合わせて年間200回を超える公演を行っている。「伝統と革新〜未来をつなぐ音楽を〜」をスローガンに掲げ、音楽を通じて地域と未来を結ぶ架け橋として進化し続けることを目指す。2024年12月に楽団創立35周年を迎えた。

オフィシャル・ホームページ <https://jcs.o.or.jp>